

① 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A項

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点が0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B項

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。
- C項 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
- b 脱字。
- c 文末の句点の脱落。
*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
- d その他不適切と判断せざるをえない箇所。
- e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

2

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

【一】評論文（教・法・経・経済工学部）（60点）

問1 8点

（模範解答例）

A①○1点

A②○1点

A③○1点

A④○1点

われわれは世界を、

〈いま・ここ〉を超えた 実在、

すなわち一定の時間大ま

かな自己同一性を保つ存在からなるものと見ているが、

B①○1点

B②○1点

B③○1点

事実の世界では、時間が経つにつれて、眼前の現象は刻々と変化しているというこ
と。 X〈逆説⇕矛盾を含むこと〉○1点 （8点）

【構造点】

・ Xは、傍線部を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する、〈逆説⇕矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、A、B内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みが成立しているときみなして1点加算。

X 〈逆説⇕矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士において、また各条件内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。（7点満点）

※ただし、【構造点】Xは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(1点)

A 「われわれは世界を、〈いま・ここ〉を超えた實在、すなわち一定の時間大まかな自己同一性を保つ存在からなるものと見ているが、」(4点)

※傍線部を説明するための一方の条件(≠われわれの世界への態度)。

① 「われわれは世界を、」の要素に1点

- 「世界に対してわれわれは、」われわれの世界を、」などでも可。
- × 「われわれ」「世界」のニュアンスの二成分がそろっていないなければ×0点。

② 「〈いま・ここ〉を超えた」の要素に1点。

- 「〈いま・ここ〉を超越した」「いまのここを超えた」など、「現在、この地点」の4ニュアンスと、それを「超える」ニュアンスがあれば可。
- × 「〈いま・ここ〉の超越」の成分が入っていないければ×0点。

③ 「實在、」の要素に1点。

- 「実際に存在するもの」「現実にある事物」などでも可。
- × 「實在」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

④ 「すなわち一定の時間大まかな自己同一性を保つ存在からなるものと見ているが、」の要素に1点。

- 「つまりある程度自己同一性を維持している存在からなるものと見ているが、」「あるいは一定期間アイデンティティを保持している存在からなるものとみなしているが、」「(物体に対して)一定の時間大まかな自己同一性を保たなければいけないと決めつけているが」などでも可。
- × 「一定時間の自己同一性を保持する存在」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「事実の世界では、時間が経つにつれて、眼前の現象は刻々と変化しているということ」と。(3点)

※傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件(≠事実世界)。

① 「事実の世界では、」の要素に1点。

- 「事実世界では、」「リアルな世界では、」「実際には」などでも可。
- × 「事実世界」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「時間が経つにつれて、」の要素に1点。

- 「時間の経過とともに、」「時間が過ぎるとともに、」などでも可。
- × 「時間の経過」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「眼前の現象は刻々と変化しているということ」と。「」の要素に1点。

- 「眼前の現象は絶えず変転しているということ。」「目の前の現象は常に移り変わっているということ。」「などでも可。
- × 「眼前の現象」「刻々と変化」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

問2 7点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

眼前の、あるいは思い出す限りの過去の現象も、ただ「あった」という言葉の意味

A③○1点

としてあるだけで消えてしまっているのに、

B①○1点

B②○1点

客観的時間を前提して、微小な〈いま〉が次々に「過去へ移行している」と思い込

B③○1点

X〈逆説⇕矛盾を含むこと〉○1点

ませること。(7点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を、A、Bの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する、〈逆説⇕矛盾すること〉の構造への評価である。ここでは条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上そろっていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説⇕矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士において、また各条件内では要素同士においても、原則的に部分採点可能とする。(6点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(1点)

A 「眼前の、あるいは思い出す限りの過去の現象も、ただ『あった』という言葉の意味としてあるだけで消えてしまっているのに。」(3点)

※傍線部を説明するための一方の条件。

①「眼前の、あるいは思い出す限りの過去の現象も、」の要素に1点。

○ 「眼前の現象の『さっき』の姿も、思い出す限りの過去の現象も、」「眼前を通り過ぎた、あるいは思い出す過去の現象も、」などでも可。()

× 「眼前」「思い出す」「過去の現象」のニュアンスの三成分がそろっていないならば×0点。

6

②「ただ『あった』という言葉の意味としてあるだけで」の要素に1点。

○ 『『あった』』という言葉の意味においてのみあるだけで「あるのは『あった』という言葉の意味においてだけで」「ただ『あった』』という言葉によつて意味づけしているだけで」などでも可。

× 『『あった』』という言葉の意味だけ」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。
(「言葉」を欠いても×。)

③「消えてしまっているのに、」の要素に1点。

○ 「消滅してしまっているのに、」「どこにもないのに、」などでも可。

× 「消滅」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

B 「客観的時間を前提して、微小な〈いま〉が次々に『過去へ移行している』」と思い込ませること。(3点)

※傍線部を説明するための、Aとは矛盾する他方の条件。

①「客観的時間を前提して、」の要素に1点。

○ 「客観的時間を想定して、」「客観的時間の中で、」などでも可。

× 「客観的時間を前提」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

②「微小な〈いま〉が次々に『過去へ移行している』」の要素に1点。

○ 「微小な〈いま〉が次々に過去へと遠ざかると」「微小な現在が次々に過去へと流れ去ると」などでも可。「微小な〈いま〉は「刻々と(過去へ移行する)」などという表現で代用可とする。

× 「微小な〈いま〉の過去への移行」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。
(「微小な」のニュアンスを欠いても×。)

③「思い込ませること。」の要素に1点。

○ 「信じ込ませること。」「思わせること。」などでも可。

×「思い込ませる」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

[別解]

A①〇1点

A②〇1点

眼前の、あるいは思い出す限りの過去の現象も、ただ「あった」といふ言葉だけで

A③〇1点

って意味づけしているだけで消えてしまっているのだ。

B①〇1点

B②〇1点

B③〇1点

客観的時間を前提に、刻々と「過去へ移行している」と語ることを、そのよゆうで

X〈逆説＝矛盾を含むこと〉〇1点

錯覚させること。(7点)

問3 7点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

ヴェスヴィウス火山からの火砕流に襲われたポンペイには、

B①○1点

B②○1点

当時の物質も光も消滅して、現在の物質だけがあり、

C①○1点

C②○1点

建物、人々、犬などの「かたち」が残るばかりであること。(7点)

X (分析Ⅱ分けること) ○1点

【構造点】

・Xは、傍線部を説明すべく、条件Aを、B、Cの〈矛盾〉しない二条件に〈分析Ⅱ分けること〉する構造への評価である。ここでは、A、B、C内の要素がそれぞれ一つ以上あれば、この仕組みの骨組みは成立していると思なし1点加算。

X (分析Ⅱ分けること) Aの要素+Bの要素+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また各条件内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(6点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合のみ加算する。(1点)

A 「ヴェスヴィウス火山からの火砕流に襲われたポンペイには、」(2点)

※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。

① 「ヴェスヴィウス火山からの火砕流に襲われた」の要素に1点。

○ 「ヴェスヴィウス火山から噴出した火砕流に見舞われた」「ヴェスヴィウス火山から流れ出した火砕流で被害を受けた」などでも可。(「ヴェスヴィウス火山からの火砕流を」受けた」でも可)

× 「ヴェスヴィウス火山からの火砕流」「襲われた」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

② 「ポンペイには」の要素に1点。

× 「ポンペイ」の成分が入っていなければ0点。

B 「当時の物質も光も消滅して、現在の物質だけがあり、」(2点)

※傍線部の説明をすべく、さらにAを説明する一方の条件。

① 「当時の物質も光も消滅して、」の要素に1点。

○ 「往時の物質も光もそこにはなく、」(二〇〇〇年前の物質も光も完全に消滅しており、「かつてあった物質も光も失われ」などでも可。

× 「当時の物質と光の消滅」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「現在の物質だけがあり、」の要素に1点。

○ 「あるのはすべて現在の物質であり、」現在の物質しか存在せず、などでも可。

× 「現在の物質だけ」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

9

C 「建物、人々、犬などの『かたち』が残るばかりであること。」(2点)

※傍線部の説明をすべく、さらにAを説明する、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件。

① 「建物、人々、犬などの」の要素に1点。

○ 「大通り、建物、人々などの」「住居、人間を含めた生物などの」などでも可。

× 「大通り、部屋や階段、人々、番犬」に相当する成分が二つ以上入っていなければ×0点。

② 『かたち』が残るばかりであること。」の要素に1点。

○ 「残っているのは『かたち』ばかりだということ。」「『かたち』しか残っていないこと。」などでも可。「かたち」は「見た目」など、ニュアンスが同じと判断できるものであれば可。

× 『かたち』が残るだけ」のニュアンスが入っていなければ×0点。

〔別解〕

A①○1点

A②○1点

ヴェスヴィウス火山からの火砕流に襲われたポンペイには、

B○1点

当時の物質も光も消滅して、

C①〇①点

C②〇①点

B②〇①点

建物、人々、犬などの「かたち」だけを残した現在の物質があるばかりであること。

X へ分析し分けること〇①点 (7点)

※ B②の位置が違っているだけの、内容・構造ともにそろった正解。

問4 9点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

「二〇〇〇前にヴェスヴィウス火山の火砕流によって壊滅した街」という意味付けは、

B○1点

現地の光景を前にしても、

C○1点 X〈分析〳分けること〉○1点

東京で写真集を前にしても

D①○1点 D②○1点

D③○1点

変わらず、「あのときのポイント」は端的に「ない」のみあり、無に近づけない

のは同じだから。

Y〈共通性の抽象による総合〳共通性を引き出してまとめること〳帰納〉
○1点 (9点)

【構造点】

・Xは、傍線部を説明すべく、話題のAを、B、Cの〈矛盾〉しない二条件に〈分析〳分けること〉して説明してゆく構造への評価である。ここでは、条件Aの要素と、条件B、Cがそろっていれば、この構造の骨組みは成立していると見なし1点加点。

X〈分析〳分けること〉 Aの要素+B+C ○1点

・Yは、B、Cから共通性を引き出してDにまとめて結論づける、〈共通性の抽象による総合〳共通性を引き出してまとめること〳帰納〉の構造への評価である。条件B、Cと、Dの要素がそろっていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y〈共通性の抽象による総合〳共通性を引き出してまとめること〳帰納〉

B+C+Dの要素 ○1点

◎採点のポイント

※A、B、C、Dは条件同士において、また条件A、D内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(7点満点)

※ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 『二〇〇〇前にヴェスヴィウス火山の火砕流によって壊滅した街』という意味付けは、「(2点)

※傍線部の理由説明をするための話題の条件である。

① 『二〇〇〇前にヴェスヴィウス火山の火砕流によって壊滅した街』というの要素に1点。

○ 「二〇〇〇前にヴェスヴィウス火山の火砕流で滅んだ街という」「古代ローマ時代にヴェスヴィウス火山の火砕流で消滅した街という」「古代ローマ時代にヴェスヴィウス火山の火砕流で廃墟となった街という」などでも可。

× 『二〇〇〇前にヴェスヴィウス火山の火砕流によって壊滅した街』のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

② 「意味付けは、「の要素に1点。

○ 「捉え方は、「意味付与は、「などでも可。

× 「意味付け」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

B 「現地の光景を前にしても、「(1点)

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く一方の条件。

○ 「現地の光景を実際に眺めていても、「現地の光景を眼前にしている場合でも、「ポンペイを訪れて周囲の風景を眺めているときも」などでも可。

× 「現地の光景を前にする」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

C 「東京で写真集を前にしても」(1点)

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件。

○ 「東京で写真集を眺めていても、「東京の自宅で写真集を眺めている場合でも」などでも可。

× 「写真集を眺める」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

D 「変わらず、』あのとときのポンペイ』は端的に』ない』のであり、無に近づけないのは同じだから。「(3点)

※B、Cから共通性を引き出してまとめ、結論づける条件。

① 「変わらず、」の要素に1点。

○ 「同様であり、「変わることはなく、」などでも可。

× 「変わらない」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 『あのとぎのポンペイ』は端的に『ない』のであり、「の要素に1点。」

○ 「二〇〇〇年前のポンペイ事実としてないのであり、「当時のポンペイは明確にないのだから、「二〇〇〇年前に火砕流によって破壊された町は端的にないのであり」などでも可。

× 『あのとぎのポンペイ』の非在「ニュアンスの成分が入っていないければ×0点。」

③ 「無に近づけないのは同じだから。」の要素に1点。

○ 「無に『近づくと』ことができないことに変わりはないから。「無に接近できないのはおなじだから。」などでも可。

× 「無に近づけないのは同じ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。「同じ」「変わりはない」のニュアンスのみ無いものも×。

問5 11点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

当時ポンペイを構成していた自己同一的・実在的物体は、定義上存在していたろうが、

B①〇1点

B②〇1点

それらはもちろん街全体、家、道路、人々、犬等も、当時の物質にこびりついて

B③〇1点

去へ推移したのではなく、

B④〇1点

B⑤〇1点

その時々を言語を学んだ観察者が、そのつと意味付与することでのみ「存在」する、「どこにも」「いつ」「にもない」「不在」としてあるのだということ。

B⑥〇1点

X〈分析〓分けること〉〇1点 Y〈総合〓まとめること〉〇1点

Z〈逆説〓矛盾を含むこと〉〇1点 (11点)

【構造点】

・Xは、条件B内で、B①を、〈B②+B③〉と〈B④+B⑤〉の〈notP→butQ〉の構文を構成する〈矛盾〉しない二部分に〈分析||分けること〉として説明する構造への評価である——〈notP→butQ〉の構文は例えば〈男じゃないよ、女だよ〉のように、否定の成分〈not〉(じゃないよ)が入ることによって、〈男じゃない〉≠〈女〉となって、〈矛盾〉しない二成分に〈分析||分けること〉する構造を形成する。ここでは、B①、〈B②〉、B③のいずれか、〈B④〉、B⑤のいずれか、の要素がそろっていれば、この構造の骨組みは成立していると思なして1点加点。

X 〈分析||分けること〉 B①+〈B②〉、B③のいずれか + 〈B④〉、B⑤のいずれか
○1点

・Yは、条件B内で、〈B②+B③〉と〈B④+B⑤〉をB⑥に〈総合||まとめること〉する構造への評価である。ここでは、〈B②〉、B③のいずれか、〈B④〉、B⑤のいずれか、B⑥の要素がそろっていれば、この構造の骨組みは成立していると思なして1点加点。

Y 〈総合||まとめること〉 〈B②〉、B③のいずれか + 〈B④〉、B⑤のいずれか +
B⑥ ○1点

・Zは、傍線部を、一見〈矛盾〉する条件A、Bに引き裂いて説明する、〈逆説||矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みは成立していると思なし1点加点。

Z 〈逆説||矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士において、また各条件内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(8点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(3点満点)

A 「当時ポイント」を構成していた自己同一的・実在的物体は、定義上存在していたろうが、」(2点)

※ 傍線部を説明するための一方の条件。

① 「当時ポイント」を構成していた自己同一的・実在的物体は、」の要素に1点。

- 「当時のポンペイを形成していた自己同一的・実在的物体の集合は、「二〇〇〇年前のポンペイを構成していた自己同一的で実在的な物体は、」などでも可。
- × 「当時のポンペイを構成」「自己同一的・実在的物体」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。
- ② 「定義上存在していたろうが、」の要素に1点。
 - 「定義により存在していたであろうが、」「定義の上では存在していたであろうが、」などでも可。
 - × 「定義上存在」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「それらはもちろん街全体、家、道路、人々、犬等も、当時の物質にこびりついて過去へ推移したのではなく、その時々を学んだ観察者がそのつど意味付与することでのみ『存在』する、『どこ』にも『いつ』にもない『不在』としてあるのだということ。」

(6点)

※傍線部を説明するための、Aとは一見〈矛盾〉する他方の条件。

- ① 「それらはもちろん街全体、家、道路、人々、犬等も、」の要素に1点。
 - ※条件B内部での話題提示の要素。
 - 「それら以上にポンペイの街全体、個々の家、人々なども、」「それらだけでなく、街全体、人々、番犬等も、」などでも可。
 - × 「それら(非物体)」「街全体、個々の家、道路、人々、番犬等(から二つ以上)」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点
- ② 「当時の物質にこびりついて」の要素に1点。
 - ※条件B内部で、〈notP～butQ〉の〈notP〉の部分を作る半分の要素。
 - 「二〇〇〇前の物質に付着して」「当時の物質に乗っかって」などでも可。
 - × 「当時の物質に付着」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ③ 「過去へ推移したのではなく、」の要素に1点。
 - ※条件B内部で、〈notP～butQ〉の〈notP〉の部分を作るもう半分の要素。
 - 「過去へ移行したわけではなく、」「過去へと遠ざかったのではなく、」などでも可。
 - × 「過去へ移行の否定」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ④ 「その時々を学んだ観察者が」の要素に1点。
 - ※条件B内部で、〈notP～butQ〉の〈butQ〉の部分を作る半分の要素。
 - 「その時々を学んだ人間が」「その時々を言葉を習得した観察者が」などでも可。
 - × 「その時々を学んだ人間」「観察者(人々)」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

- ⑤ 「そのつど意味付与することでのみ『存在』する」の要素に1点。
- ※ 条件B内部で、〈notP～butQ〉の〈butQ〉の部分を作るもう半分の要素。
- 「その度ごとに意味付与することではか「存在」しない、」「そのつどの意味付与が「存在」させるにすぎない、」などでも可。
- × 「意味付与でのみ」「存在』する」のニュアンスの二成分がそろっていないなければ×0点。
- ⑥ 『はい』『いい』『いっ』にもなら『不在』としてあるのだということ。「」の要素に1点。
- ※ 条件B内部で、〈notP～butQ〉の構文を構成する〈B②+B③〉と〈B④+B⑤〉の部分をもとめる要素。
- 「空間的にも時間的にも『不在』としてあるのだということ。「」、『どい』『いっ』にも定位できなく『不在』としてあるという可。「」などでも可。
- × 『はい』『いい』『いっ』にも『いっ』に『不在』としてある「」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

問6 9点

(模範解答例)

A ○1点

ポンペイの再現は、

B ○1点

偽物という反論に遭おうが、

C ① ○1点

C ② ○1点

ポンペイを形成していた物質は消滅し、その意味も言語上にしかないのだから、

X 〈分析〓分けること〉 ○1点

C ③ ○1点

C ④ ○1点

Y 〈総合〓まとめること〉 ○1点

そっくりなだけでも見る価値はあるから。(9点)

Z 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点

【構造点】

・ Xは、条件C内部を、〈矛盾〉しないC①とC②に〈分析〓分けること〉する構造への評価である。ここではC①、C②がそろっていれば、この構造が成立しているとみなして1点加

X 〈分析〓分けること〉 C①+C② ○1点

・ Yは、やはり条件C内部で、C①、C②を、〈C③+C④〉に〈総合〓まとめること〉して結論づける構造への評価である。ここでは、C①、C②、〈C③〉、C④のいずれか〈の要素がそろっていれば1点加

点。 Y 〈総合〓まとめること〉 C①+C②+〈C③〉、C④のいずれか〈 ○1点

・ Zは、傍線部を説明すべく、条件Aを、一見〈矛盾〉する、条件B、Cに引き裂いて説明する、〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、Bと、条件C内の要素がそろっていればこの構造の骨組みは成立しているとみなして1点加

Z 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A+B+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士においても、また条件C内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(6点満点)

※ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(3点満点)

A 「ポンペイの再現は、」(1点)

※ 傍線部の理由説明するための話題提示の条件。

○ 「ポンペイの再現は、」「ポンペイの正確な再現は、」などでも可。 ×

「ポンペイの再現」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「偽物という反論に遭おうが、」(1点)

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく一方の条件。

○ 『本物のポンペイ』ではないという反論が起こるかもしれないが、「本物ではないと非難されるかもしれないが、」などでも可

× 「偽物という反論」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

C 「ポンペイを形成していた物質は消滅し、その意味も言語上にしかないのだから、そっくりなだけでも見る価値はあろうから。」

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「ポンペイを形成していた物質は消滅し、」の要素に1点。

○ 「ポンペイを構成していた物質は完全に消失し、」「ポンペイを形作っていた物質は完全に消え去り、」などでも可。

× 「ポンペイを形成していた物質の消滅」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「その意味も言語上にしかないのだから、」の要素に1点。

○ 「ポンペイを形成する意味もともと『どこ』にも『いつ』にもないのだから、」「ポンペイの意味は言葉上にしかないのだから、」などでも可。

× 「ポンペイの意味の不在」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

③ 「そっくりなだけでも」の要素に1点。

○ 「外見が似ているだけでも」「そっくりな光景というだけでも」などでも可。
× 「そっくり」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

④ 「見る価値はあろうから、」の要素に1点。

- 「目にする価値はあるだろうから。」 「目の保養にはなるだろうから。」 などでも可。
× 「見る価値はある」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問7 9点

(模範解答例)

A ○1点

ポイント

B ①○1点 B ②○1点

物質が 全て当時と入れ替わり、

C ①○1点 C ②○1点

「かたち」も過去から「手練り寄せている」わけではなく、

X 〈分析〓分けること〉 ○1点

D ①○1点

D ②○1点

その「かたち」に私が意味付与する限りで 立ち現れるにすぎないこと。(9点)

Y 〈総合〓まとめること〉 ○1点

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明すべく、条件Aを、〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉してゆく構造への評価である。ここでは、条件Aに加えて、条件B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈分析〓分けること〉 A+Bの要素+Cの要素 ○1点

・ Yは、条件B、Cを、条件Dに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは、条件B、C、Dの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Y 〈総合〓まとめること〉 Bの要素+Cの要素+Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件B、C、D内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(7点満点)

※ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

※特に注意書きがある場合を除き、各要素につき、同義語などニュアンスが同じものは可とする。採点基準に記載されている要素の条件を満たしていれば、他に誤読、不要な語などがあっても加点する。

※各要素の「くがなければ×」「という採点条件は、必要十分条件であり、同時に「くがあれば○」とする。「く」に複数の成分が示されている場合、すべて必要。」

A 「ポンペイは、」(1点)

※傍線部を説明するための、話題提示の条件。

× 「ポンペイ」の成分が入っていないければ×0点。

B 「物質が全て当時と入れ替わり、」(2点)

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く一方の条件。

① 「物質が」の要素に1点。

× 「物質」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「全て当時と入れ替わり、」の要素に1点。

○ 「当時とは全く違っており、」当時のものはかけらも残されておらず、「く」などでも可。

× 「当時と入れ替わり」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 『かたち』も過去から『手練り寄せている』わけではなく、」(2点)

※傍線部を説明すべく、A説明して行く、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件。

① 『かたち』も「の要素に1点。

× 『かたち』のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「過去から『手練り寄せている』わけではなく、」の要素に1点。

○ 「過去から引き戻しているわけではなく、」過去から引つ張り寄せているわけでもなく、「く」などでも可。

× 「過去から『手繰り寄せる』の否定」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

D 「その」かたち」に私が意味付与する限りで立ち現れるにすぎないこと。」(2点)

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「その」かたち」に私が意味付与する限りで」の要素に1点。

○ 『かたち』に私が意味を与える限りで」「私_がその『かたち』を意味づける限りにおいて」「などでも可。

× 『かたち』に意味付与」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「立ち現れるにすぎないこと。」の要素に1点。

○ 「浮上してくるにすぎないこと。」「現前するにすぎないこと。」などでも可。

× 「立ち現れるにすぎない」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

二 現代文（評論）採点基準（合計60点）

問1 8点

（模範解答例）

A①○1点

A②○1点

震災で電車が止まれば家に帰れず、お昼にご飯を食べに帰れないような職住不

A③○1点

致の就労形態によつて、

B①○1点

B②○1点

生きていく上で必要な《いのちの世話》を、ともに担う経験を積み重ねることができな

X〈分析Ⅱ分けること〉○1点

ため、

C○1点

Y〈総合Ⅱまとめること〉○1点

コミュニティの力が弱まっていること。（8点）

【構造点】

・Xは、傍線部を、〈因果関係〉にある〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析Ⅱ分けること〉として説明してゆく構造への評価である。ここではA、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立している」とみなして1点加算。

X〈分析Ⅱ分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

・Yは、条件A、Bを、条件Cに〈総合Ⅱまとめること〉して行く構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あり、かつ条件Cがあれば、この構造の骨組みは成立している」とみなして1点加算。

Y〈総合Ⅱ分けること〉 Aの要素+Bの要素+C ○1点

※A、B、Cは条件同士においても、また条件A、B内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。（6点満点）

※ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。（2点満点）

A 「震災で電車が止まれば家に帰れず、お昼にご飯を食べに帰れないような職住不一致の就労形態によって、」(3点)

※傍線部を説明するための〈因果関係〉を構成する〈因〉の条件。

- ① 「震災で電車が止まれば家に帰れず、」の要素に1点。
○ 「電車が止まったら家に帰れないところで働く、」電車が止まったら帰宅できないきなる、」などでも可。

× 「電車が止まったら帰宅できない」の成分が入っていないければ×0点② 2②
「お昼にご飯を食べに帰れないような」の要素に1点。

○ 「昼ご飯を食べに家に帰れないような」「昼食を取るために家に帰れないような」などでも可。

× 「昼ご飯を食べに帰れない」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「職住不一致の就労形態によって、」の要素に1点。

○ 「職住不一致の労働の形によって、」「職住が一致しない働き方によって、」などでも可。
例5のように、「職住不一致」の状態で「働く」状況が読み取れれば○。

× 「職住不一致の就労形態」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「生きていく上で必要な《いのちの世話》を共に担う経験を積み重ねることができないため、」(2点)

※傍線部を説明するための〈因果関係〉を構成する〈果〉の条件。

① 「生きていく上で必要な《いのちの世話》を」の要素に1点。

○ 「生きていくのに不可欠の《いのちの世話》を」「人間の生に欠かすことのできない《いのちの世話》を」などでも可。

× 「生きていく上で必要な《いのちの世話》」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。『いのちの世話』はこの表現以外不可。

② 「共に担う経験を積み重ねることができないため、」の要素に1点。

○ 「相互に担う経験を蓄積できないため、」「ともに果す経験を重ねられないため、」などでも可。

× 「共に担う経験の蓄積の否定」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「コミュニティの力が弱っていること。」(1点) ※

B、Cをまとめて結論づける条件。

○ 「コミュニティが衰弱していること。」「コミュニティが活力を失っていること。」などでも可。

× 「コミュニティの力の衰退」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問2 10点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

「標準家族」のイメージに沿った nLDK という画一的な空間が、

B①〇1点

B②〇1点

鉄の扉で家族生活を私的な内部に密閉し、

C①〇1点

C②〇1点

X (分析〓分けること) 〇1点

かつての長屋や露地のような開放性が消滅して、

D①〇1点

D②〇1点 Y

孤独死や凶悪犯罪、家庭内暴力などの発生に だれも気づかないこと。

Y (総合〓まとめること) 〇1点 (10点)

【構造点】

・ Xは、傍線部の理由説明をすべく、条件Aを「P～but notQ」の構文にはまった「矛盾」しない二条件
B、Cに「分析〓分けること」する構造への評価である。「P～but notQ」は例えば「男だよ、女じゃないよ」のように、否定の成分(not)が入ることで「男」≠「女じゃない」となって「矛盾」のない二条件に切り換える働きをする。ここでは、A、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加算。

X (分析〓分けること) Aの要素+Bの要素+Cの要素 〇1点

・ Yは、B、Cの二条件を、条件Dに「総合〓まとめること」する構造への評価である。ここでは、B、C、Dの要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Y (総合〓まとめること) Bの要素+Cの要素+Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士で、また各条件内の要素同士でも原則的に部分採点可能である。(8点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

※ 各要素の「〓がなければ×」という採点条件は、必要十分条件であり、同時に「〓があれば〇」とする。「〓」に複数の成分が示されている場合、すべて必要。

A 「標準家族」のイメージに沿ったnLDKという画一的な空間が、」（2点）

※ 傍線部の理由説明をするための話題提示の条件。

① 『標準家族』のイメージに沿った」の要素に1点。

○ 「標準家族」の映像に合わせて」「想定された標準的な家族に見合うように設計された」などでも可。

× 『標準家族』のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「nLDKという画一的な空間が、」の要素に1点。

○ 「画一的な空間が、」「nLDKという決まり切った空間が、」などでも可。

× 「画一的な空間」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

B 「鉄の扉で家族生活を私的な内部に密閉し、」（2点）

※ Aを説明するための〈P～but notQ〉の構文の〈P〉の条件。

① 「鉄の扉で家族生活を」の要素に1点。

○ 「家族生活を鉄製の扉によって」「鋼鉄製の扉で家族の生活を」などでも可。

× 「鉄の扉」「家族生活」のニュアンスの二成分がそろっていなければ×0点。

② 「私的な内部に密閉し、」の要素に1点。

○ 「私的な内部空間に閉じ込め、」「私的な内部に封印し、」などでも可

× 「私的な内部に密閉」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。（「私的な」のみを欠いていても不可。）

C 「かつての長屋や露地のような開放性が消滅して、」（2点）

※ Aを説明するための、Bとは〈矛盾〉しない、〈P～but notQ〉の構文の〈but not Q〉の条件。

① 「かつての長屋や露地のような」の要素に1点。

○ 「かつての長屋などのように」「かつての露地などのように」でも可。

× 「かつての長屋や露地のような」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「開放性が消滅して、」の要素に1点。

○ 「開放性が消えてしまい、」「開放的な雰囲気が失われ、」「外部に開かれずに」などでも可

× 「開放性の消滅」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

D 「孤独死や凶悪犯罪、家庭内暴力などの発生にだれも気づかないこと。」（2点） ※

B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「孤独死や凶悪犯罪、家庭内暴力などの発生に」の要素に1点。

○ 「孤独死や家庭内暴力などの発生に」「凶悪犯罪や家庭内暴力などの事件の発生に」なども可。

× 「孤独死、凶悪犯罪、家庭内暴力などの発生（少なくとも一つ）」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「だれも気づかないこと。」の要素に1点。

○ 「気づく者がいないこと。」「取り返しがつかなくなるまで誰も気づかないこと。」などでも可。

× 「誰も気づかない」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問3 9点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

A④○1点

子供たちの様子を 見るとはなしに見ている、大人たちの粘りつくようなまなざしを 鬱陶しく感じつつも、

B①○1点

B②○1点

その中で、自分を象っていくことができるという

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点

C ○1点 Y 〈総合〓まとめること〉 ○1点

意味。 〈70字〉 (9点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する、〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立している
とみなして1点加算。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

・ Yは、A、BをCに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上と、条件Cがあれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Y 〈総合〓まとめること〉 Aの要素+Bの要素+C ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件A、B内の要素同士においても原則的に部分採点可能である。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

※ 70字の字数制限付きの問題であるから、字数オーバーの解答は採点対象外、つまり0点である。

A 「子供たちの様子を見るとはなしに見ている大人たちの粘りつくようなまなざしを鬱陶しく感じつつも、」(4点)

※ 傍線部を説明するための一方の条件。

① 「子供たちの様子を」の要素に1点。

○ 「子どもたちの有り様を」「子どもたちの挙動を」などでも可。

× 「子どもたちの様子」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

② 「見るとはなしに見ている」の要素に1点。

○ 「見るわけではなく、横目でちらちら見ている」「さりげなくちゃんと見ている」「遠くからだに確かに見ている」「それとなく気にする」などでも可。

× 「みるとはなしに見ている」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

③ 「大人たちの粘りつくようなまなざしを」の要素に1点。

○ 「大人たちのまといつくようなまなざしを」「大人たちの遠くからだに確かに見ている視線を」などでも可。

× 「大人たちの粘りつくようなまなざし」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

④ 「鬱陶しく感じつつも、」の要素に1点。

○ 「鬱陶しいと思いつつも、」「邪魔くさく感じながらも、」などでも可。

× 「鬱陶しい」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

B 「その中で自分を象っていくことができるという」(2点)

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「その中で」の要素に1点。

○ 「その視線の中で」「その鬱陶しさの中でこそ」などでも可。

× 「その(非大人の鬱陶しい視線の)中で」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

② 「自分を象っていくことができるという」の要素に1点。

○ 「自分の人生の基礎を築いていけるといいう」「自分の生き方の土台を作っている」などでも可。

× 「自分を象っていいける」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

C 「意味。」(1点)

※ A、Bをまとめる結語の条件。

× 「意味。」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点

問4 9点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

「見て見ぬふりをする」も 「見ぬふりをして見る」も、

B○1点

共に相手のことを見ているのは確かだが、

C①○1点

C②○1点

前者が自分にまで災難が及ぶのを怖れて 傍観を決め込む態度であるのに対し、

C③○1点

C④○1点

後者はその場しのぎの解決にしかないから黙って見ているが、余程のことがあ

X 〈分析〓分けること〉○1点

ればきちんと口をだす態度であること。

Y 〈逆説〓矛盾を含むこと〉○1点 (9点)

【構造点】

・Xは、C内部で、前者の〈C①+C②〉と、後者の〈C③+C④〉に〈分析〓分けること〉する構造への評価である(より単純に前者/後者の〈対比(〓比べること)と考えるもよい〉。ここでは〈C①、C②のいずれか〉と〈C③、C④のいずれか〉がそろっていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X 〈分析〓分けること〉 〈C①、C②のいずれか〉 + 〈C③、C④のいずれか〉 ○
1点

・Yは、傍線部を説明すべく、条件Aを、〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明して行く、〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件Aの要素と、条件Bと、条件Cの要素があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y 〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉 Aの要素+B+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件A、C内では要素同士においても原則的に部分採点可能。(7点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

※各要素の「〜がなければ×」という採点条件は、必要十分条件であり、同時に「〜があれば○」とする。「〜」に複数の成分が示されている場合、すべて必要。

A 『見て見ぬふりをする』も『見ぬふりをして見る』も、(2点)

※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。

※採点例4 〈「前者」も「後者」も〉、のように指示語で明確に示されているものもA①②許容

① 『見て見ぬふりをする』も「の要素に1点。

× 『見て見ぬふりをする』の成分が入っていないければ×0点。

② 『見ぬふりをして見る』も、「の要素に1点。

× 『見ぬふりをして見る』の成分が入っていないければ×0点。

B 「共に相手のことを見ているのは確かだが、」(1点) ※

傍線部を説明すべく、Aを説明する一方の条件。

○ 「いずれも相手を見ているということでは同じだが、」「どちらも相手を見ているという点では違いはないが、」などでも可。

× 「ともに相手を見ているのは同じ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「前者が自分にまで災難が及ぶのを怖れて傍観を決め込む態度であるのに対し、後者はその場しのぎの解決にしかないから黙って見ているが、余程のことがあればきちんと口をだす態度であること。」(4点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明する、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「前者が自分にまで災難が及ぶのを怖れて」の要素に1点。

○ 「前者は自分に後難が及ぶのを怖れて」「前者は注意した後の展開が怖くて」などでも可。

× 「前者(Ⅱ「見て見ぬふりをする」」「自分にまで災難が及ぶのを怖れて」のニュアンスの二成分が入っていないければ×0点。

- ② 「傍観を決め込む態度であるのに対し、」の要素に1点。
- 「知らぬふりをする態度であるのに対して、」「気づいていないふりを決め込む態度であり、」などでも可。

× 「傍観を決め込む」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

- ③ 「後者はその場しのぎの解決にしかならないから黙って見ているが、」の要素に1点。

○ 「後者はその場しのぎの解決を嫌って黙視しているが、」「後者は根本的な解決にならないので黙って見ているが、」などでも可。例5は「関わる姿勢を持ちながらもそっと見守ることで過度に干渉しない態度である」となっているが、全体として左の三成分が読み取れるので○。

× 「後者」「その場しのぎの解決の否定」「黙視」のニュアンスの三成分がそろっていないければ×0点。

- ④ 「余程のことがあればきちんと口をだす態度であること。」の要素に1点。

○ 「よほどのことがなければ口を出さない態度であること。」「見過ごすことができない場合には口を出す態度であること。」などでも可。

× 「余程のことであれば口を出す」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問5 8点

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点

個々の家は内部に閉ざされ、互いに顔を合わせるのはエレベーターの中だけになっ

A③○1点

て、「見ぬふりをして見る」関係が成立せず、

B①○1点

B②○1点

また学校や遊園地などの子どもたちだけの空間に隔離されてしまい、大人に混じっ

B③○1点

て育つ時間や経験、地域の伝統行事や防災活動での役割を果す機会が削がれていった。

X (分析Ⅱ分けること) ○1点 Y (分析Ⅱ分けること) ○1点 (8点)

【構造点】

・ Xは、条件B内部を、(因果関係)をなす(矛盾)しない二部分、B①と(B②+B③)に(分析Ⅱ分けること)する構造への評価である。ここではB①と(B②、B③のどちらか)があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X (分析Ⅱ分けること) B①+(B②、B③のどちらか) ○1点

・Yは、傍線部を、〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析Ⅱ分けること〉する構造への評価である。ここで、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加算点。

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士において、また各条件内では要素同士においても原則的に部分採点可能である。(6点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 「個々の家は内部に閉ざされ、互いに顔を合わせるのはエレベーターの中だけになって、『見ぬふりをして見る』関係が成立せず、」(3点)

※ 傍線部が「子どもたち」の境遇に与えた影響を説明するための一方の条件。

① 「個々の家は内部に閉ざされ、」の要素に1点。

○ 「個々の家は鉄の扉で閉ざされ、」「個々の家は内側に密閉され、」などでも可。

× 「個々の家の内部への密閉」のニュアンスの成分入っていないければ×0点。

② 「互いに顔を合わせるのはエレベーターの中だけになって、」の要素に1点。

○ 「エレベーターの中でしか顔を合わせることはなく、」「エレベーターの中でようやく顔を合わせるしかなく、」などでも可。

× 「顔を合わせるのはエレベーターの中だけ」のニュアンスの成分入っていないければ×0点。

③ 『見ぬふりをして見る』関係が成立せず、」の要素に1点。

○ 『見ぬふりをして見る』というグレイな関係が成り立たず、『見ぬふりをして見る』という関係が起こりえず、」などでも可。

× 『見ぬふりをして見る』関係の否定」のニュアンスの成分入っていないければ×0点。

B 「また学校や遊園地などの子どもたちだけの空間に隔離されてしまい、大人に混じって育つ時間や経験、地域の伝統行事や防災活動での役割を果す機会が削がれていった。」

(3点)

※ 傍線部が「子どもたち」の境遇に与えた影響を説明するためのもう一方の条件。

① 「また学校や遊園地などの子どもたちだけの空間に隔離されてしまい、」の要素に1点。

○ 「また子ども教室や遊園地などの子どもだけの空間に囲い込まれてしまい、」「他方で教室や遊園地などの子ども空間に隔離されて、」などでも可。

- × 「子ども空間への隔離」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
- ② 「大人に混じって育つ時間や経験、」の要素に1点。
- 「大人の世界で採まれて育つという時間や経験、」「大人の中で成長するという時間と経験、」などでも可。（「時間や経験」は「機会」でも可。）
- × 「大人の中で育つ時間や経験」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。 ③ 「地域の伝統行事や防災活動」での役割を果す機会が削がれていった。」の要素に1点。
- 「地域の伝統行事などでの役割を担う機会がなくなっていた。」 「地域の防災活動などで役割を果たす機会が減らされていった。」などでも可。
- × 「地域の伝統行事や防災活動（＝地域社会）」「役割を果たす機会の減少」のニュアンスの二成分がそろっていないなければ×0点。

問6 9点

（模範解答例）

A ○1点

子どもたちは仕事中の大人に混じって遊び、

B ①○1点

B ②○1点

大人たちは子育てやしつけを学校に任せずに、町内の仕事や悪い遊びも少しは教えるようにして、

X 〈分析Ⅱ分けること〉○1点

C ①○1点

C ②○1点

C ③○1点

C ④○1点

地域社会が 子どもたちに 生き延びるための知恵、生き存える能力を 自然に覚えさ

Y 〈総合Ⅱまとめること〉○1点

せる力。 (9点)

【構造点】

・Xは、傍線部を、〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析Ⅱ分けること〉して説明する構造への評価である。

ここでは、条件Aと、条件Bの要素があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈分析Ⅱ分けること〉 A+Bの要素 ○1点

・Yは、条件A、Bを、Cに〈総合Ⅱまとめること〉する構造への評価である。ここでは、条件Aと、条件

B、Cの要素があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y 〈総合Ⅱまとめること〉 A+Bの要素+Cの要素

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件B、C内では要素同士においても原則的に部分採点可能である。(7点満点)

※ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「子どもたちは仕事中の大人に混じって遊び、」(1点) ※

傍線部を説明するための一方(子ども側)の条件。

○ 「仕事をしている大人たちの中で子どもたちは遊び、」「子どもは仕事中の大人たちに入り混じって遊びに興じ、」「子供たちが地域社会の中で大人たちに混じって遊び」などでも可。

× 「子どもが大人にたちに混じって遊ぶ」のニュアンス成分が入っていないければ×0点。

B 「大人たちは子育てやしつけを学校に任せずに、町内の仕事や悪い遊びも少しは教えるようにして、」(2点)

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉しない他方(大人側)の条件。

① 「大人たちは子育てやしつけを学校に任せずに、」の要素に1点。

○ 「大人たちは子育てやしつけを学校に押しつけずに、」「大人たちは子育てやしつけを自ら分担し、」などでも可。

× 「大人たち」「子育てやしつけを学校に押しつけない」の二成分がそろっていないければ×0点。

② 「町内の仕事や悪い遊びも少しは教えるようにして、」の要素に1点。

○ 「町内の仕事なども教えるようにして、」「町内の仕事に悪い遊びも少しは交えて教えて、」などでも可。

× 「町内の仕事なども教える」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「地域社会が子どもたちに生き延びるための知恵、生き存える能力を自然に覚えさせる力。」(4点)

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「地域社会が」の要素に1点。


× 「地域社会」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「子どもたちに」の要素に1点。

× 「子どもたち」の成分が入っていないならば×0点。

③ 「生き延びるための知恵、生き存える能力を」の要素に1点。

○ 「生き延び、生き存えるための知恵と能力を」「生存し続けるための知恵と能力を」などでも可。

× 「生き延びるための知恵、 生き存える能力」のニュアンスの成分が入っていないならば

×0点。

④ 「自然に覚えさせる力。」の要素に1点。

○ 「勝手に身につけさせる力。」「自発的に覚える力。」などでも可。

× 「自然に覚えさせる力」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

問7 7点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

人々は家族同士が介入しあう煩わしさから解放される 都市生活の快適さを希求したが、

X (分析||分けること) ○1点

B①○1点

B②○1点

結果的に地域コミュニティは分断され、子どもがそこにいれば勝手に育っていく場が

Y (分析||分けること) ○1点 Z (逆説||矛盾を含むこと) ○1点

失われたから。(7点)

【構造点】

・Xは、条件A内で、〈因果関係〉をなす〈矛盾〉しない二要素A①、A②に〈分析||分けること〉していく

構造への評価である。ここでは、A①とA②そろっていれば、この構造が成立しているとみなして1点加
点。

X (分析||分けること) A①+A② ○1点

・Yは、条件B内で、〈因果関係〉をなす〈矛盾〉しない二要素B①、B②に〈分析||分けること〉していく

構造への評価である。ここでは、B①とB②そろっていれば、この構造が成立しているとみなして1点加
点。

Y (分析||分けること) B①+B② ○1点

・Zは、傍線部を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する、〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Z〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎採点のポイント

※A、Bは条件同士において、また各条件内では要素同士においても原則的に部分採点可能である。(4点満点)

※ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(3点満点)

A 「人々は家族同士が介入しあう煩わしさから解放される都市生活の快適さを希求したが、」(2点)

※傍線部の理由説明をするための一方の条件。

① 「人々は家族同士が介入しあう煩わしさから解放される」の要素に1点。

○ 「人々は家族が互いに介入し合う煩わしさから逃れられる」「人々は家族が相互に介入し合う煩わしさを嫌って」などでも可。

× 「家族が相互に介入し合う煩わしさの否定」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

② 「都市生活の快適さを希求したが、」の要素に1点。

○ 「快適な都市生活を求めたが、」「都市生活の快適さを追求したが、」などでも可。

× 「都市の快適さを希求」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

B 「結果的に地域コミュニティは分断され、子どもがそこにいれば勝手に育っていく場が失われたから。」(2点)

※傍線部の理由説明をする、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「結果的に地域コミュニティは分断され、」の要素に1点。

○ 「皮肉なことに地域のコミュニティは寸断され、」「結果として地域コミュニティはバラバラにされ、」「地域コミュニティは自生しなくなった」などでも可。

× 「地域コミュニティの分断」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

② 「子どもがそこにいれば勝手に育っていく場が失われたから。」の要素に1点。

○ 「子どもがそこで自ら育っていく場が失われたから。」「子どもが自発的に育っていく場が消滅してしまっただから。」などでも可。

× 「子どもが勝手に育っていく場の消滅」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

問1 (各1点×2) a ㍯しか b ㍯なれ

問2 (各1点×3) い ㍯イ ろ ㍯エ は ㍯ア

問3 (各3点×4)

(3点)

問3・①・模範解答 長年の間 (3点)

【各部の採点】 3点満点。加ポイント1箇所。

「長年の間」……3点。「多くの年月」＋「間」の内容。完答。

※これらの要素以外に余計なものが書いてある場合にはマイナス1点。

a (1点) b (2点)

問3・②・模範解答 ②才能のある人が 失脚し (3点)

【各部の採点】 3点満点。加ポイント2箇所。

a 「才能のある人が」…1点。「才能のある人」＋主格の意味。完答。「能力のある人が」でも可。

b 「失脚し」………2点。「活躍の場を失う」の意味

※これらの要素以外に余計なものが書いてある場合にはマイナス1点。

a (1点) b (2点)

問3・③・模範解答 ③それぞれが自分勝手なことをして (3点)

【各部の採点】 3点満点。加ポイント2箇所。

a 「それぞれが」………1点。「各々(おのおの)」のような解釈。

b 「自分勝手なことをして」……2点。「勝手な振る舞いをする」、「我が物顔に振る舞う」のような解釈。

※これらの要素以外に余計なものが書いてある場合にはマイナス1点。

a (2点) b (1点)

問3・④・模範解答

家康公以後の将軍の方々 (3点)

【各部の採点】 3点満点。加ポイント2箇所。

a 「家康公以後の」……2点。「家康公の子孫の」のニュアンス。

b 「将軍の方々」……1点。「将軍(達)」と書いてあること。

※これらの要素以外に余計なものが書いてある場合にはマイナス1点。

問4 1 || 8点

a (2点)

問4・1・模範解答

ずっと優れた治世であると言われ続けてきたが、

b (2点)

c (1点)

d (2点)

才能ある人が失脚したり争乱が起こったりと、現在の江戸の御代にまさ

e (1点)

つてはいないと評している。(8点)

【各部の採点】 8点満点。加ポイント5箇所。

a 「ずっと優れた治世であると言われ続けてきたが、」……2点。

「(延喜・天暦の時代は)優れた時代であると評価されていた」のような内容。「未来(も言われ続ける)」というニュアンスがある場合△1点(解答例5参照)。

b 「才能ある人が失脚したり」……2点「才人の失脚」の内容。「才人が活躍の場を失う」でも可。

c 「争乱が起こったり」……1点。「争乱の勃発」の内容。

d 「現在の江戸の御代にまさつてはいない」……2点。「今の時代にまさっていない」は「江戸時代」としてないので1点。

e 「と評している」……1点。文末処理。ここだけでは加点無し。

問4 2 || 才 3点

問5 1 || 4点

問5・1・模範解答

a (2点)

そのような国が豊かな時代は、

b (2点)

これまでにないので (4点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント2箇所。

a 「そのような国が豊かな時代は」…2点。「徳川幕府の豊かな時代」という内容。「平和」ではダメ。

b 「これまでにないので」……………2点。「今までに例がない」＋原因理由。

「今までになかったので」などのように過去の意味があるものは1点。

問5 2 || 8点

a (2点)

問5・2・模範解答

下剋上で争いが絶えなかった日本国を、

b (3点)

家康公が内乱を鎮圧し諸国大名を従えることによつて、民を暮らしやすくしたと

c (2点)

d (1点)

いう事情。(8点)

【各部の採点】 8点満点。加ポイント4箇所。

a 「下剋上で争いが絶えなかった日本国」…2点。上下関係が崩壊し互いに争っていたこの国という内容。「争いが絶えない」があれば○。

b 「家康公が内乱を鎮圧し諸国大名を従えることによつて」……3点。家康公が内乱を平定し、諸国大名を従えるという内容。

c 「民を暮らしやすくした」…2点。人民の生活を平和で豊かにしたという内容。

d 「という事情」…1点。文末のかたち。ここだけ正解は加点なし。

大問四問1(1)

大問四問1

基準 配点…6点

■形式上の不備

- ・一字でもひらがな以外の文字を用いているものは**全体0点**。
- ・句読点の有無は不問。

■模範解答

そのひとあげてかぞふ(う)べからず

(別解)

そのひとかぞふ(う)るにたふ(う)べからず

■採点方法

- ・各要素単独採点

要素A「其人」の読み方…そのひと＝1点

- ・「そのひとは」も可とする。

- ・他は一字でも異なっていれば**要素A加点なし(要素A＝0点)**

要素B「勝数」の読み方

…(1) あげてかぞふ(う)＝4点

(2) かぞふ(う)るにたふ(う)＝4点

- ・「勝」を、「あげて」または「たふ」以外の語として読んでいる場合(「かつ」「まさる」など)

は**要素B加点なし(要素B＝0点)**

- ・(1)(2)とも、「数」の活用の種類や活用形が誤っているものは**要素B 1点減点**。

(1) の場合、「かぞふる」「かぞへる」など。

(2) の場合、「かぞふ」「かぞへる」など。

- ・(2)の場合、「勝」の活用の種類や活用形が誤っているものは**要素B 1点減点**。「たふる」「たへる」など。

- ・(2)の場合、「かぞふる」と「たふ」の間の「に」が抜けているものは**要素B 2点減点**。

要素C「不可」の読み方…べからず＝1点

- ・「へからぎらん」も可とする。
- ・他は一字でも異なっていれば要素C加点なし(要素C＝0点)

大問四 問2

基準 配点…4点(2点×2)

■形式上の不備

- ・() の有無は問わない。

■模範解答

- ② (ウ) ③ (ア)

■採点方法

- ・解答例のみ正解。

■ 大問四 問3

基準 配点…4点(1点×4)

■模範解答

- (a) より
- (b) いへ(え)ども
- (c) かくのごとし
- (c) もとより

■採点方法

- ・解答例のみ正解。

大問四 問4

基準 配点…6点

■形式上の不備

- ・（ ）の有無は問わない。

■模範解答 解答例のみ正解。

(エ) (オ) (カ)

■採点方法

- ・ 完答のみ正解とし、部分点は認めない。

大問四 問5

基準 配点…7点

■形式上の不備

- ・ 句読点の有無は問わない。

■模範解答 同意表現可。ニュアンスがあっていれば可とする。

A 昔の聖人や賢人の名
が

B

いつまでも減じないことを

C

敬慕し

D

ない者はいない

■採点方法 各要素単独配点

要素A 「古の聖賢の」：昔の聖人や賢人（の名）が 1点

- ・「昔の」は「古代の」「いにしえの」なども可とする。
- ・「聖人や賢人」は、「聖賢」でも可とする。
- ・「賢人」は「賢者」も可。

・「聖人」のみまたは「賢人」のみは**要素A加点なし**（**要素A 0点**）。

- ・「聖賢」を「聖なる賢者」の意味として「尊い賢者」のようにしているものは**要素A加点なし**

（**要素A 0点**）。

- ・「くの名」の有無は問わない。
- ・「くの名」は「くの偉大さ」「くの文章」なども可。

要素B 「不朽を」…いつまでも滅びないことを 1点

- ・「後世に残ることを」「滅びないことを」「消えないことを」の意味であれば可。
- ・「いつまでも」はなくても可。
- ・「不朽であることを」「不朽さを」は許容する。
- ・「昔の聖人・賢人の中で、いつまでも滅びないものを」という意味に解釈しているものも可。
- ・「不朽を」は**要素B加点なし**（**要素B 0点**）。

要素C 「慕」…敬慕し 1点

- ・「慕う」も可とする。
- ・「尊敬する」「あこがれる」なども可。

要素D 「くざるは莫し」…くない者はいない 4点

- ・「くない者はない」も可。
- ・「者」は「事（こと）」「人」「学者」も可。
- ・「みなくする」と訳しても可。
- （例）みな古代の聖人や賢人の名がいつまでも滅びないことを慕う。

・「ない物」はない」は**要素D 2点減点**。

・「くないのではない」は**要素D 3点減点**。

・二重否定であることを理解していないものは**要素D加点なし**（**要素D 0点**）

基準 配点：6点

■形式上の不備

- ・句読点の有無は問わない。

■模範解答 同意表現可。ニュアンスが合っていれば許容。

A 人に

B

ほめたたえ

C

られるようになった。

■採点方法 各要素単独採点

要素A 人に \parallel 加点要素とせず。

- ・「世間の人に」「世間に」なども許容する。
- ・まったく訳出していないもの・明らかに誤った内容であるものは**全体から1点減点**。

要素B 「称」の解釈：ほめたたえる：3点

- ・「ほめる」「称賛する」の意であれば可。
- ・「称（される）」「言わ（れる）」は不可。**要素B加点なし（要素B \parallel 0点）**。

要素C 「見」の解釈：れる・られる（受身）：3点

- ・受身形で訳せていれば、文末表現（時制）は問わない。
- ・「人にほめられる」「人に称賛された」「人にほめたたえられている」なども可。

大問四 問7

基準 配点：7点

■形式上の不備

- ・（ ）の有無は問わない。

■模範解答 解答例のみ正解

(イ)